

令和元年6月17日現在

機関番号：13101

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K18460

研究課題名(和文)地域データ統合による地域映像メディアの実態研究

研究課題名(英文)A study of the local media by the local data unification.

研究代表者

原田 健一(Harada, Kenichi)

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：70449255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、新潟を中心とし、特に中山間地域に焦点をあわせ、調査を進めた。なぜなら、地域の映像メディアの展開は、平野部や都市部より中山間地域において極めて特徴的な普及のあり方を示すことが分かったからだ。調査は地域の機関と連携し、地域住民の映像資料を発掘し、整理作業をし、さらには聞き取りを行った。なお、映像資料はデジタル化を行い、「にいがた MALUI連携地域データベース」にアップするためにタグ付けなどのインディキシングの作業を行い、サイトアップをした。また、研究成果は、新潟県立歴史博物館にて展覧会を開催し、地域住民へと還元し、さらに情報を得る循環的な調査を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域の映像メディアの普及・展開は、これまで中心都市から各地域の都市へと広がると想定されていたが、都市と都市とを結ぶ流通経路である中山間地域において普及しており、社会におけるモビリティが多面的な社会的役割を担っていたことが明らかになった。地域に蓄積された映像資料から、これまでとは違った中央のナショナルなマスの大きな歴史と地域のマイナーな小さな歴史の関係性を抽出し、地域文化の複雑な様態を分析した。これらの研究成果は、新潟県立歴史博物館との連携のもと展覧会を開催し、地域住民へと還元することで、地域社会全体をボトムアップする循環的な研究・教育サイクルを構築する、その可能性を実践的に実現した。

研究成果の概要(英文)：My research project focused on the mountainous area in Niigata because the way of expansion of the visual media had been different from those in the plain and urban areas. In collaboration with regional organizations, I unearthed and catalogued visual materials and interviewed the regional residents. The digitized and indexed visual materials were uploaded to Niigata MALUI Regional Database. In addition, I curated an exhibition in Niigata Prefecture Museum of History, through which I aimed at conducting a circulative research with the regional residents.

研究分野：映像社会学

キーワード：地域メディア MALUI連携 中山間地域 映像メディア 地域情報 統合型データベース モビリティ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本における資料(文字・映像)のデジタル化は明らかに遅れている。こうした状況のなか、マスレベルの一般化されやすいナショナルなデータは、国家政策としてピックデータとして、デジタル化され利用、閲覧可能となる。しかし、マイナーなローカルで一般化されにくいヴァナキュラーなものは、デジタル化されず忘却され、消去される可能性が大きくなっている。知を支える資料空間は、デジタル化のなかで、大きく再編され、再定義されようとしている。研究者はこうした状況に対して、自らの研究基盤となる資料空間そのものを問うだけでなく、それにどう関わるのか、考える必要がでてきている。

2. 研究の目的

2017年3月より新潟県立図書館の戦前の郷土新聞のデータベースと新潟大学地域映像アーカイブのデータベースとの統合型データベースを構築し、閲覧・公開を始めた。これは、新潟という地域の活字メディア(地域新聞)と映像メディア(地域映像)の統合型データベースによって、新しい資料空間を現出させ、大量の資料を処理し検索するだけでなく、自明視されていた資料空間のあり方を批判的に捉え直すものである。このデータベースの統合は、人文社会学の研究における領域融合的な問題を新たに提起する。

地域社会、あるいは文化を多面的に分析するために、歴史資料、民俗資料、芸術資料など個々の研究領域の枠組み内で見えていたのでは分からない関連性、社会的な文脈を読み解くためにデータ群とデータ群とを統合し関連づけ、媒介する。そのことで、社会で生み出されている不可視の構造的性、社会的意識、感情、感覚の共通性、あるいは問題をえぐり出す。そうした新たな研究方法そのものを開拓し試行する。

3. 研究の方法

近代以降に現れたメディアによって生産された膨大な資料は、資料の現場からみたとき、マス・メディアの機関に限らず、さまざまな中間的な組織や関係性の結節点に、あるまとまりをもった群(かたまり)として残されている。こうした状況をふまえ、調査・研究としては資料・映像などを単体で扱うというより、群(かたまり)として扱い、資料のコンテキストを問題にしていける必要がある。

こうした群としての資料・映像の社会的な関係性、場のコンテキストを明確にするには、必ずしも、その内容にこだわらない、横断的な関係性のあり方を探り出す必要がある。構築された「にいがた MALUI 連携地域データベース」はこうしたことを可能にするためのシステムであるが、さらにデータを追加しつつ、さまざまな検索を試み、さらには、検索方法そのものを再検討する。データベースの利活用の仕方そのものを洗練化し、社会で生み出されている不可視の構造的性、社会的意識、感情、感覚の共通性、あるいは問題を析出できるかを実践的に試みる。

4. 研究成果

この2年の研究期間においては、新潟における中山間地域の映像資料を中心に調査を行った。なぜなら、地域の映像メディアの展開は、平野部や都市部より中山間地域において極めて特徴的な普及のあり方を示すことが分かったからだ。なお、分析をさらに具体化するために、中山間地域で発掘された写真約 25000 コマのデジタルデータを「にいがた MALUI 連携地域データベース」にアップするためにタグ付けなどのインディキシングの作業を行い、2019年3月にサイトアップをした。

調査研究をするなかで得た研究成果は、新潟県立歴史博物館との連携のもと、2019年1月から3月にかけて「村の肖像」展を開催し、地域住民へと還元し、さらにさまざまな情報を得る調査を試みた。約 7400 人の観覧を得た。なお、展覧会開催にあわせて調査報告、ならびに

研究発表、あるいは小中高校生が博物館に参加しての授業ワークショップなどを実施するなど、地域住民への多面的なアプローチを行った。こうしたプロセスにおいて、中央のナショナルなマスの 大きな歴史 と地域のマイナーな 小さな歴史 をいかに架橋させ、さらにはまた、中央と地方というヒエラルキーをいかに研究・教育的に解体させるかという課題に応え、さらには、地域情報、映像データを地域に還元することで活用する研究・教育基盤を構築し、地域創生へのボトムアップを用意する循環的な研究・教育サイクルを実践的に構築することを行った。



『村の肖像』展：展示写真（左）会場写真（右）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

1. Kenichi Harada ‘Analyzing “Regional Communities” Employing “Visual Media” and “Materials”’ “Archiving Movements: Short Essays on Materials of Anime and Visual Media” Vol.1 2019.3, pp.40~44.
2. 原田健一 「地域・映像・資料の関係を解く - 映像資料論の試み」『メディア史研究』**45**号 **2019年3月29~44**頁
3. 原田健一 「地域の映像とは何か - ローカル局のドキュメンタリー映像の文化的、社会的文脈とその問題」『マス・コミュニケーション研究』**92**号 **2018年1月3~21**頁

〔学会発表〕(計 2 件)

1. 原田健一 「荻野茂二のフィルム群 - その生産構造と作品」日本映像学会大会 一般研究報告 **2018年5月26**日 東京工芸大学
2. 原田健一 「新潟のメディア文化」日本マス・コミュニケーション学会大会・シンポジウム **2017年6月18**日 新潟大学

〔図書〕(計 3 件)

1. 『「村の肖像」調査記録報告書』原田健一編 **2019年3月138**頁 新潟県・新潟大学ミュージアム連携ネットワーク
2. 『村の肖像 山と川から見た「新潟」』原田健一編 **2019年1月64**頁 新潟県・新潟大学ミュージアム連携ネットワーク
3. 『手と足と眼と耳 - 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』原田健一・水島久光編 学文社 **2018年3月**

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

「にいがた MALUI 連携地域データベース」<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/malui/>

展覧会

「村の肖像 山と川から見た「にいがた」」(主催：新潟県・新潟大学ミュージアム連携ネットワーク)新潟県立歴史博物館、**2019年1月19日～3月21日**

6. 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。